

研修名	ひきこもり支援実務者連絡会 「ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」における支援事例を通して」
話題提供者	北九州市ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」 センター長 和田 修 氏
助言者	小倉記念病院 緩和ケア・精神科部長 精神科医 三木 浩司 氏
開催日時	令和3年3月5日（金）18：30～20：30
開催場所	北九州市総合保健福祉センター（アシスト21） 2階 講堂
参加者数	17名（内訳：保健師、社会福祉士、心理士、ケアマネージャー、相談員など）
研修の 内容等	<p>ひきこもりの問題に関わる支援者が一同に会し、情報交換を行うことで、連携のためのネットワークの構築や互いのスキルアップを目指すことを目的として、連絡会を開催するもの。</p> <p>ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」について、支援事例を交えながらご紹介いただき、その後、支援困難事例を提供していただき、見立てや支援方法について参加者の方々にグループ討議を行った。</p>
参加者の声	<ul style="list-style-type: none">・「すてっぷ」の関わりが理解できた。・グループワークで、自分が持っていない他の参加者の考えを聴くことができ視野が広がった。・援助者が熱を入れた支援をするほど、うまくいかないほど、本人も親も落ちてくるので、そのことに援助者はアンテナをはってないといけないと感じた。・当事者本人以外の人に対して気持ちのケアをすること。小さなことでもいいので何でも身のまわりに起きている変化に目を向けることが大切だと思った。・本人や家族の強みを探ることが大切だと感じた。・「一緒に行動する」ということが信頼関係の構築につながる。時々、まじめなことではなくゆるみも必要だと学んだ。・家庭内の安心感をたくわえていく時間を大事にしていきたいと思った。・今回学んだことを、ケースを整理する際に実践してみたいと思う。・支援する方も余裕を持つことが大切だと思った。・本人や家族の求めているものを色々な切り口から見つけていくことが必要だと感じた。・相談者の可能性を見つけるアプローチが大切だと思った。